

平成28年度授業改善推進プラン 《国語》西東京市立ひばりが丘中学校

●全国学力学習状況調査(中3)

課題の見られた問題の概要	結果
漢字を書く(独創的)	21.6%
字を整えて書く際のポイント	41.9%
修飾語と被修飾語の関係	49.3%

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(中2)

課題の見られた問題の概要	結果
読みとる力	58.7%
解決する力	44.2%
取り出す力	63.7%

●調査結果を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
3年生は活用を問うB問題で、全て都・全国の平均を上回っていた。 2年生は関心・意欲・態度の項目は高い数値が出ており、授業を通して国語に対する意欲喚起はできている。	3年生は特に漢字の読み書きや文法などの言語に関する知識に課題がある。 2年生は読み取る力や解決する力、取り出す力に課題がある。

●前年度の取組及び本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
各学年で、グループでの話し合いやペア学習を取り入れることで、少しずつ活用する力が身についてきた。今後も生徒の意欲を喚起できるような発問の工夫を行っていく。	2年生の読み取る力や3年生の言語に関する知識など、基本的な部分の定着が甘い部分があるので、単元ごとの振り返りや、定期的に学習テストを行うことで、学びの定着を図っていく。

●学年ごとの課題及び改善策等

学年	生徒の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	積極的に発言や話し合いをすることができるが、文章から読み取ったことの要点をおさえてまとめることや、自分の考えを根拠を明確にして書くことに苦手意識をもつ生徒が多い。	文章の内容だけでなく、文章の書き方にも注目させ、基本的な構成やわかりやすく伝えるための工夫点を学習していく。また、自分の考えをまとめる活動を積極的に取り入れ、工夫点を活用しながら書く練習を重ねていく。そして、自分の文章を推敲し、文末表現や文章の構成を確かめる時間を十分にとる。
2年生	意見文を構成する力がついてきた。また、発表は声量・わかりやすさは上達した。しかしどちらにもまだ説得力が不足している。言葉の文脈上の意味や言葉から読解することにはまだ課題がある。漢字への苦手意識も払拭しきれていない。	文章の読解に力を入れ、学んだことを違う文章でも参考にできるように指導していく。漢字学習は語源調べをさせると共にプリントで定着を図る。また課題解決には語彙力が求められるため、辞書の活用や見本や参考になる文章や言葉に触れさせていく。
3年生	文章を読んで、文脈からどこに何が書かれているかを答えるだけの読解力は身についている。しかし、漢字の読み書きや文法事項等の基本的な言語に関する知識が定着していない。	漢字ノートを課題として与えることで、基礎基本の反復学習を行わせている。それに加え授業の中で漢字の小テストを実施するなどして、さらに言語に関する知識が定着するような手立てを講じていく。

●学校全体で取り組む内容

語彙力の向上のために辞書の活用やプリントを使った反復学習をしていく。また、全学年で行っている朝読書も、語彙力の向上に役立つことが考えられる。説得力のある文章が書けるようにするために、教材の内容読解にとどまらず、文章構成に目を向けて指導していく。
--